

“発達に困難さを抱えている児童生徒への理解”

～どの子にもわかる授業づくり～ (研修報告)

【気になる生徒の支援・工夫を考えるために大切なこと】

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ① “行動” を観察する | ② 理由を考える |
| ③ 環境 (ユニバーサルデザイン+合理的配慮) を工夫する | |

この場合の行動とは、本人の良いところや困っているところで、実際に目に見えている事、具体的に確かめられること、評価できること。「ちゃんとする」では具体的にどういう状態がOKなのか分からない。具体的に「授業中ノートを書く」とか「ホウキで教室を掃除する」など。

良いところを見つけておくと、適切な配慮のヒントになり、支援に使える。
また、行動には必ず理由がある。

【理由を考えるヒント】

- | | |
|------------------|----------------|
| ・見えなかった?聞こえなかった? | ・不安だなあ・・・ |
| ・やり方が分からない・・・ | ・できてるつもりだけど・・・ |
| ・あっちの方が気になる～ | ・あれ?何するんだったっけ? |
| ・やる事が分からない～ | ・難しすぎる～ |
| ・もう十分頑張った。疲れた・・・ | |

理由 (先行状況) → 行動 → 結果

↑状況を調整できれば、好ましくない行動はおおかた解消する

例えば・・・

- ★見やすくするために、目標以外の物を片付ける
- 見るべきところを限定する
- 拡大コピーをする
- など

- ★聞きやすくするために、正面から目の高さに合わせて、穏やかに呼びかける
- 短く、具体的に、一つずつ伝える
- 目からの情報もつける (写真、図、表など)
- 大切なことは、個別に確認する
- もう一度言って」と聞ける雰囲気を作る
- など

- ★不安を減らすために、急な変更を避ける
- 具体的な表現を使う (あいまいな表現を使わない)
- 人の気持ちを説明する
- 暗黙の了解を説明する / 言外の意味を伝える
- 距離のとり方を伝える
- など

- ★効果的に指示を出すために、まずは注意を引き付ける
- やるべき行動の内容を具体的に伝える
- 何度も指示をくりかえす時は、少し時間を与える (待つことも大切)
- 指示に従いやすくなるよう、環境を工夫してみる
- 従い始めたり、従いそうなそぶりを見せたらすぐに認めるなど

- ★注意を向けやすくするために、注意すべき場所を限定する
- 興味・関心のある内容を扱う
- 注意力を保つために
- こまめに声をかける (肯定的に)
- 作業をさせる・出番を与える
- タイマー/手順カードを使う
- など

いろいろな特性のある子が教室にいる。だからこそ・・・

- ① 多様な提示方法
- ② 多様な表出方法
- ③ 柔軟な取り組み方

そして、時々思い出したいこと・・・

- ☆見方、考え方が、自分とは違うかもしれない
(自分の見方を押し付けてしまっていないか・・・)
- ☆必要な情報がうまく伝わっていないかもしれない
(伝わるような工夫には、どんなことがある?)

保護者に協力して欲しい・伝えたいと思ったら、
まずは行動を記録→理由を考える→環境を変える
焦らず、関係づくり (子どもの良いところをこまめに伝える・保護者の努力を認め、
上手くいかない部分を助ける工夫も考える)

大切なこと・・・一人で頑張り過ぎず、教職員が協力する